

妊婦と子供を守る為の除染計画

平成23年8月7日（日）

高橋亨平

南相馬市の未来と夢は、全て、子供達にかかっている。従って妊婦、子供は徹底して守らなければ将来は無い。そのためにはどうすればよいのか、考えているだけでは、100年経っても何も変わらない。少しでも改善する為に、小さな一歩かもしれないが、行動し、出来る事は何でもすることであろう。そうすれば、きっと、道は開けるはずだ。その様な主旨に、基づいて、皆で協力しながら、更に、次の行動をおこしていけば、大きなうねりになっていくかもしれないし、眠っている市民に、きっと、誇りと勇気を思い出させることができる。大切な事は、成功しても、失敗しても、データをしっかり残すことを忘れないことだ。

除染計画

除染場所：南相馬市原町区（妊婦宅）

集合場所：南相馬市原町区橋本町1-3-2、原町中央産婦人科医院、駐車場、

本部：職員寮1階、かしのきホール、休憩、連絡、昼食、懇親会は全てここで
行なう。

集合時間：午前9時

協力参加者及びグループ、

原町中央産婦人科医院、高橋亨平、高橋荘平、横山龍二 計3名

亀田総合病院、産婦人科部長、鈴木真、他医師1名 計2名

東京大学上研究室、坪倉正治、他2名、 計3名

サードウエーブグループ、田中一正、他2名、 計3名

NPO 法人実践まちづくり、箱崎亮三他、5名、 計6名

安心安全プロジェクト・花と希望を育てる会 田中節夫 計2名

NPO 実践まちづくり 横田一弘、 計2名

安心安全プロジェクト・NPO 実践まちづくり・つながろう南福島、吉田邦弘 計
2名

石川建設、石川 俊、他機械部、2名、 計3名

JCF グループ、花と希望を育てる会、高村美春、 計1名

ボランティア、東京、1名、大阪、1名

合計29名

報道関係、日本テレビ山下、福島民報、その他、英国メディア
※ 終了後、かしのきホールにて、反省及び親睦会を開きます。

作 業 実 践

実践当日は猛暑で凄まじい暑さであった。記録をしっかり残すという大切な仕事は東京大学上教室の坪倉先生を担当とした。先ず、サードウェーブの線量計測チームに1・2名ずつ着いて、教えてもらいながら、地面、1m、2m、と記録をとりながら2m間隔で全てを測定、この最も大切な作業には2ー3時間程かかった。マーキングし、外部が終り次第屋根の高圧洗浄に入る。セシウムの性質から、最初に食らいついた場所からは、すっぽんの様に離れないという特徴を利用し、敷地内で処理することとした。そのために、スコップで長く大きな穴をほり、除去した表土等はそこに埋め、50cm位の土で固める予定であった。これが誤算でうだる様な暑さの中で、土の性質もあり、重く粘り強い土を、しかもスコップなどでは太刀打ち出来ず、大変な作業で、困難を極めた。狭い敷地でも重機が必要であることを痛感した。屋根の高圧洗浄に続き、次に表土をはいだが、枯れた芝の根が強く、暑い中、皆汗だくになりながら、交代し、かなり厳しい作業が続いた。皆の体も心配となったため、若干の未練を残しながらも、3時半には終了と決めた。終了後皆で銭湯に行き汗を流し、反省会を行なった。

皆さんの意見を聞きながら、これは単なる作業ではなく大きな範囲で、学術的な意義があることを感じていた。データはいずれ坪倉先生の報告を聞くとして、とにかく、一人の妊婦さんの為にこれだけの人たちが、あの灼熱の中、協力してくれたことに心から感謝したい。ありがとうございました。またこれに懲りずに更なる研究と実践を積み、プロ軍団が誕生することを心から応援したい。

そして又、南相馬市には、こういう人達がいる事を覚えておいてほしい。

南相馬市に栄光あれ！

